

ロシアの代替医療「4」キルリアン写真のデジタル画像化

プラズマ放電発光による健康診断

1939年、ロシアのキルリアン夫妻によって開発された高圧・高周波の電磁場による放電プラズマ現象を撮影した写真像、いわゆる「キルリアン写真」が再び脚光を浴び、医療面などでの実用化が研究されている。医療現場でキルリアン写真を心身の健康診断に使用するための機器を製造販売するKTI社とその医療現場での声を紹介しよう。

プラズマ放電発光現象とは

生体、非生体にかかわらず、物体を高圧・高周波の電磁場に置いたときに、その表面に放電プラズマ発光現象が発生することは、すでに2世紀以上前から知られて、電磁波の天才科学者ニコラ・テスラもこれに注目していた。

1939年、ロシアのキルリアン夫妻が、この発光現象をフィルムに捉える方法を開発し、放電プラズマ現象を利用して生体の健康状態を診断できることを発表した。例えば、心身健康の状態では生体の周りに一定の色の整ったプラズマ放電発光像が観察され、健康が乱れた場合には放電が乱れて発光色も変化する。この放電の変化は目に見える変化以前に生じるので、



プラズマ放電発光現象をフィルムにとらえることに成功したキルリアン夫妻

疾病予防に利用できるとされた。

また、手や足の指からの放電プラズマ現象を観察することで、人体全体の生理活動を捉え、各器官の健康状態を診断できる。また、薬品投与や各種セラピーなどの治療による健康回復の結果をフィルム上で観察できることが発表された。

これは「キルリアン写真」と呼ばれ、当時、西側にも広く知れわたり脚光を浴びた。しかし、そのユニークさから、生体が放つ神秘的な未知のオーラを記録したものだという誤解を招き、キルリアン写真への熱狂は一旦冷めた感があつた。

プラズマ放電視覚像装置

GRVメソッド

サンクトペテルブルク情報技術・機械学・光学大学のコロトコフ

KTI社副社長エレナ・ヤノフスカヤさん



フ教授は、1995年、キルリアン理論に基づく写真像をコンピュータ上でリアルタイムの映像として視覚化し、データを分析する技術「プラズマ放電視覚像装置（GRV装置）」を開発した。これにより、プラズマ放電の変化をデジタル化し、データ分析をすることが可能となった。

コロトコフ教授によるGRV装置の開発に協力し、販売に携わるサンクトペテルブルクKTI社の副社長エレナ・ヤノフスカヤさんは次のように語る。

「プラズマ放電視覚像による診断は、生体の個々の器官のみならず、個々の器官が相互に活動するシステムとしての全体の状態を計測できるユニークなメソッドです。将来的にはこれがすべての医師の卓上に置かれる実用的な装置となることも考えられるでしょう。」

特に興味深いのは応用心理学での利用です。一定の人格のタイプと一定のプラズマ発光の相関関係を証明するデータが得られています。

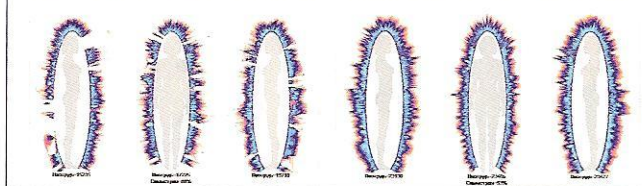


コンスタンチン・ゲオルギエヴィッチ・コロトコフ
Konstantin Georgievich Korotkov

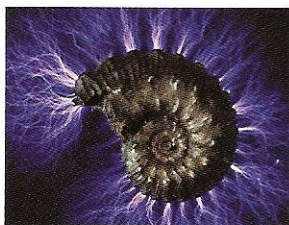
1952年レニングラード(現サンクトペテルブルク生まれ)。
レニングラード総合技術大学無電物理学部卒業。
サンクトペテルブルク国立情報技術機械学・光学
大学教授、国際医療応用バイオ電気図連盟(IUMAB)
総裁、物理文化学術研究所副所長。
4冊以上の単著、70本以上の学術論文を執筆。



Ваши клиенты четко увидят результат воздействия процедур.



- ◀ 温泉浴セラピーの前と後での潜在的なプラズマ放電視覚像をビジュアル化したもの
- ▼ GRV装置による生体の撮影像



GRV装置の基本的構造は、誘電体をなすベースの上に検体を載せる。この誘電体ベースに電磁場発生装置から高圧インパルスが流され、検体表面に発生するプラズマを撮影し、ビデオシグナルでパソコンに送り、分析する。検体には通常1本ないし10本の指が使用される。この指周辺のプラズマ放電視覚像から、身体全体の健康状態はもちろん、身体の各器官の健康状態を診断できるという。また身体全体の潜在的なプラズマ放電視覚像もビジュアル化して構成することができる。プラズマ放電視覚像は、その明るさ、構造、幾何学的パターン等の30以上のパラメーターで分析される。

これによりさまざまな成長の段階にある一人ひとりの性格形成を客観的に追跡することができるようになります。さらに心理的な「相性」の研究も興味深いデータを出しています。家族の形成や個人的関係、グループの形成などの問題に対する新しいアプローチになります。

サンクトペテルブルク市内で家庭訪問心理療法士のマリヤ・スタルチェンコさん（心理学博士、34歳）に現場の声を聞いてみた。

スタルチェンコさんは2000年にGRV装置を購入して心理療法で使用している。「わたしは何よりも面談時の患者の心理状態と感情の動向に関心を持っていきます。セラピーの前と後で毎回必ずGRV装置の撮影データを記録しています。セラピー前のデータは、患者がどのような状態にいるのかを理解する助けになり、そのデータに応じて、その日のセラピーの戦略を考えることができます。」

また、患者によつては心身症的な問題を抱えている場合もあり、その場合は神経病理科医や精神科医の助けが必要とされます。経験を十分に積んだ心理療法士でも心理的原因以外の疾病が問題を引き起こしていることを見極めるのは難しいのですが、GRV装置を使うことでこの診断の助けが得られます。わたしもこれで他の専門医を患者に紹介したことがあります。

またGRV装置が患者との交流を促し、患者の気分をほぐすという思いがけない効果もあるという。「患者にこのメソッドについて説明し、GRV装置を試してみるよう提案します。その結果、データ上の病状診断

は、わたしだけでなく患者自身も「研究者」として一緒に参加することになるのです。

これはわたしが患者の敵ではなく味方であるということに患者に意識してもらおう助けになります。さらによいのはセラピーの後で患者自身も治療結果を目で見る事が出来ることです」と言う。

KTI社によれば、このほか、GRV装置は液体や植物を検体にしてその性質や変化を研究し、環境調査に寄与できる。また化粧品品の適性判断などの研究も大手化粧品会社などと進めているという。

まだまだ未知の分野が多いプラズマ放電視覚像の応用と研究であるが、興味深い試みである。



心理治療士マリヤ・スタルチェンコさんのGRV装置による診察